

令和元年度 学校自己点検評価結果

学校法人 札幌青葉学園
北海道看護専門学校

1：教育理念・目的・人材育成像

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 学校の理念・目的・育人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	2.8	2.8	本校では、看護師を養成する施設としての理念、目的、目標を定め、育人材像を明確にしており、教職員共通の認識の下で学生の教育・指導を行っている。
(2) 学校における職業教育の特色が表われているか	2.8	2.7	理念、目的において、目指すべき看護専門職者としての在り様を明記し、目標において指標となるべき事項につき、具体的に7つの項目に分けて標記している。
(3) 教育理念・目的・人材育成像は社会のニーズに合っているか	2.8	2.6	開校から7年目の昨年度に、開校後の実績や社会の変化を勘案し開校当初の理念目的、目標を見直し現在のものに変えたが、厚労省による令和4年度からのカリキュラム改正を踏まえ、カリキュラム会議等にて内容の再検討を行っている。
(4) 学校の理念・目的・育人材像・特色などが学生・保護者等に周知がなされているか	2.3	2.2	理念、目的、目標、特色については、学校ホームページや学校案内、シラバスに明記している。学生に対しては、入学時のオリエンテーションにおいて、学生便覧を使用し周知している。また保護者に対しては、保護者懇談会においても説明を行っている。しかしながら、一部の学生・保護者には伝えきれていないとの意見もあることから、今後より積極的な周知の方策についても検討が必要である。
(5) 学校の将来構想は示されているか	2.4	2.2	学校の将来構想については、「将来構想」の定義を明確にして議論を進める必要がある。教育理念・目的・人材育成像等を通し、本校が目指す教育の視点からの構想は示されているが、その他の視点からの議論が進んでいないことから、やや低い評価となった。今後のカリキュラム改正動向をも含め、議論を進め将来構想の立案が必要と考えている。

2：学校運営

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 目的等に沿った運営方針、事業計画が策定されているか	2.6	2.6	目的・目標に向けて、毎年運営方針を策定し、それに基づき事業計画も理事会の承認を経て策定されている。
(2) 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	2.6	2.4	学校の運営組織の中に、細則に規定された意思決定機関として学校運営会議を置いており、意思決定機能は有効に機能している。また、全教員が参加する教務会議を月2回開催、および部門ごとの連絡会を随時開催することにより、情報の共有化を図っている。やや評価が低いのは、「有効に機能しているか」に対し客観的な評価が難しい点が起因していると思われる。
(3) 人事、給与に関する規定等は整備されているか	2.5	2.5	人事及び給与に関する規程は、学校法人札幌青葉学園専任教職員就業規則、および学校法人札幌青葉学園給与規定において定められている。人事評価に対する基準の明確化が今後の課題である。
(4) 各組織の意思決定システムは整備されているか	2.5	2.3	学園においては理事会を中心とした意思決定システムを整備しており、学校単位では意思決定機関としての学校運営会議がある。各部門における稟議から決裁までの各段階での承認についてもシステム化し実行している。しかしながら、十分な評価値となっていない点を真摯に受け止め、普段の各組織のコミュニケーションの向上に努め意思決定システムの更なる整備に努める必要がある。
(5) 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	2.3	2.6	ホームページ等を利用して随時情報発信を行っている。今年度文科省による職業実践専門課程の認定取得に当たり、必要とされる各種の情報公開をホームページ等を利用して積極的に行った。情報公開に関しては、一層の充実が必要と考えており公開内容、方法、時期について検討、実行が重要と考える。
(6) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	1.8	2.0	学園内クラウドによる情報の共有、業務の管理等、一部情報システム化等による業務の効率化が図られているが、更なる効率化として学籍管理システムの導入が欠かせないと考えている。このシステムの導入については、現在学園グループとしての方向を検討中であり近々整備予定である。

3：教育活動

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(目標の設定等)			
(1) 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	2.8	2.9	平成30年度より開校以来のカリキュラムを実績等を基に一部改正し実施するなど教育理念に沿ったカリキュラムを編成している。令和4年度からのカリキュラム改正に向け、教育課程編成委員会の議論等をも加味して編成内容の一層の充実を図る必要がある。実施方針は、毎年度策定され明示されている。
(2) 各学年に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	2.8	2.7	学年別到達目標を明確に示している。またカリキュラム上の学習時間も法令で求められている時間数を上回っており学習時間は確保されている。
(教育方法・評価等)			
(3) 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	2.7	2.6	法令に基づき基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野に分け、各分野とも密接に繋がり、体系的に編成されている。
(4) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	2.4	2.6	高校を卒業して間もない若い世代が多い事から、医療人としての心構え等を育成出来るようなカリキュラム、教育方法を検討する必要がある。また、教育課程編成委員会の効果的な運用を図り、教育方法の工夫・開発にも努める必要がある。
(5) 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	2.3	2.5	昨年度より関連分野の団体、病院の役員等から成る教育課程編成委員会を組織し各委員による意見を反映できる体制としている。今後は厚労省によるカリキュラム改正に向け、実習施設との連携を一層深めカリキュラムの作成に当たる必要がある。
(6) 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実技・実習等）がカリキュラムに組込まれているか	2.6	2.7	病院を中心とした臨地実習を合計で23単位行い、実践的な職業教育を行っている。

3：教育活動

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(7) 授業評価の実施・評価体制はあるか	2.8	2.8	学生による授業評価を行っており、授業の改善を図っている。 教員間での授業研究や評価が今後の課題である。
(8) 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	2.6	2.5	実習先や外部講師の方から個別に意見を伺うだけでなく、昨年度より学校関係者 評価委員を組織し、体系的に外部からの評価を取り入れる仕組みを構築し、学校評 価を実施するなかで、学校全体として組織・運営の改善を図る体制を整えている。 外部評価の結果を教職員間で共有し、改善が必要なものがあれば改善を行い、その後 の状況などをモニタリングする必要がある。
(9) 成績評価・単位認定、卒業判定の基準は明確になっているか	2.8	2.7	これらは「成績評価、単位の認定及び卒業に関する規定」に明記されており規定 を遵守している。しかしながら運用における「基準」が「教育的配慮」によりばら つきが生じる面があることを指摘する声があり、この点が評価点に表れた。
(資格試験)			
(10) 国家資格取得に関する指導体制を体系的に位置づけているか	2.8	2.8	国家試験対策担当の教員を配置し、各学年計画的に模擬試験等の対策内容を策定 し実施している。また、クラス担任の調整・相談役として昨年度から学年調整者を 置き、各学年の学修状況に応じて、各種学力向上策を実施する体制を整えている。
(教職員)			
(11) 教育理念・目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員 を確保しているか	2.6	2.6	専任教員、非常勤講師ともに要件を満たした教員を確保している。 より高い教育レベルを求める点から「要件を満たす」に厳しい評価をする者もいる。
(12) 関連分野における業界連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確 保する等の取組みが行われているか	2.4	2.4	第一線で活躍している医師・看護師をはじめ、大学等から優れた講師を招き本校 の教育に協力をいただいている。専門基礎分野の一部の科目において、複数の講師 による授業の分担が余儀なくされている現状があり、今後の課題となっている。

3：教育活動

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(13) 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	2.2	2.2	<p>教員研修規程を設け、研修の参加費用の助成等を行っている。しかしながら平日は授業や臨地実習先への引率等の通常業務があり、研修に参加する場合は休日または通常業務の合間となる事も多く、時間の確保が課題となっている。</p> <p>この他、必要と判断した研修には、「業務」として参加をしてもらうなど教員に求められる能力等を高める為の環境を整えているが、やはり通常業務との兼ね合いや予算上の制約もありまだまだ十分な状況にないのが課題である。</p>
(14) 職員の能力開発のための研修等が行われているか	2.4	2.4	<p>今年度、教員に対する学内研修を2回開催した。更なる内容の充実を図ることとしたい。事務職員に対する研修等も今後実施する必要がある。</p>

4：学修成果

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 就職率の向上が図られているか	2.7	2.8	求人情報の公開はもとより就職ガイダンスの開催等、就職に関するサポート体制が整っており、就職を希望する者の就職率は開校以来100%である。 臨地実習施設への就職率（今年度実績約6割）の向上を図る必要がある。
(2) 国家試験合格率の向上が図られているか	2.7	3.0	今年度の新卒者については、75名全員が合格し4年ぶりの合格率100%となった。国家試験対策担当教員を中心に前年度の実績等を分析し国家試験対策の実施計画を立案しそれに基づき各施策を実施している。また、計画的に全教員が協力、分担し放課後等の空き時間も利用し、国家試験対策の指導に当たる体制が整っており国家試験合格率は、毎年全国平均を上回る高い合格率となっている。また、不合格となってしまった既卒学生に対しサポートも行っている。
(3) 退学率の低減が図られているか	2.3	2.7	問題解決の為、学生および必要に応じ保護者との面談を行っている。 昨年度からは、クラス担任の他に学年調整者を設置し、学生一人ひとりの動向を細かく把握し、教員全体の連携を強化することで学生のサポートを行っている。今年度の退学率は2%と低減が図られている。しかしながら、元々看護師への志望動機が曖昧で途中で進路変更する学生も一定数いるのも現実である。
(4) 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.1	2.0	卒業時に実習先に就職した学生については、教員が近況や評価を聞くことがあるが、積極的・定期的には実施してはいない。それ以外の卒業生についても動向を把握しきれていない。学校からのアンケート調査や同窓会等を通じて、卒業生の勤務状況等を把握する必要がある。
(5) 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	1.9	2.0	組織的に卒業後のキャリア形成への効果の把握を行ってはいない。 アンケート調査の定例化や実習先に就職した学生等、状況が把握しやすい卒業生へのヒヤリング等を実施し、教育課程編成委員会等の意見を勘案し教育活動の改善を図る必要がある。

5：学生支援

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	2.8	2.8	各クラス担任及び教職員全体での学生に対する細やかな就職指導体制が整備され、有効に機能している。また、教員による個別の指導、支援のほか、学校内での就職ガイダンスも実施している
(2) 学生相談に関する体制は整備されているか	2.6	2.6	主に各クラス担任が学生相談の窓口となり対応している。 学生が利用しやすいカウンセリング体制のあり方を検討し実施をする必要がある。
(3) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	2.3	2.8	今年度から施行の文部科学省による所謂「修学支援新制度」の対象校の指定を取得し該当学生に対し、担当者を配置し、学生の支援を行っている。また、日本学生支援機構の奨学金、その他各種奨学金の案内や助言およびサポートを行っている。また、社会人に対しては、専門実践教育訓練給付金制度の認定校として該当者に対し支援を行っている。さらに学生の家計事情によっては納付金の分割も認めサポートしている。この他、今年度学校独自の奨学金給付規程を制定し一層の支援体制を整えた。
(4) 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.8	2.8	学校教育法、学校保健安全法に基づいて、毎年春に健康診断を実施している。また、健康診断結果に基づいて、健康管理担当教員および学園本部の養護教員による健康管理への指導、健康相談等を行っている。
(5) 学友会が円滑に活動するための支援体制がある。	2.7	2.7	学友会担当の教員を選任し、共用ではあるが学友会用の部屋を提供するなど、学友会活動のサポートを行っている。
(6) 課外活動に対する支援体制が整備されている。	1.8	2.2	課外活動自体が、臨地実習などカリキュラムの関係上時間的な余裕がなくかなり困難な状況のため、現状課外活動は行われていない。 今後学友会活動の動向を見ながら、必要であれば支援の在り方を検討したい。

5：学生支援

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(7) 保護者と適切に連携しているか	2.6	2.7	各学年毎年、保護者懇談会・個別相談会を開催している。この他に必要に応じてクラス担任が中心となり個別に面談を行っている。学生の生活環境、精神的な成熟度の個人差、多様性が広がる状況において、保護者との連携は学生指導の成否を分ける大きな要素であり、最近の保護者・学生の傾向を考えると、よりタイムリーな連携を図り家庭と学校で協力して学生をサポートできる環境を目指す。
(8) 卒業生への支援体制はあるか	2.3	2.2	国家試験不合格者への支援体制は整っている。また、卒業生から要望があった場合には個別に対応・支援をしっかりと行っている。評価がやや低い原因は組織的な体制を組んでいない点への評価と思われる。
(9) 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2.4	2.6	入試方法に社会人入学を設けている他、専門実践教育訓練給付金制度認定校の取得および札幌市ひとり親家庭自立支援給付金（親側の学びの支援）利用者へのサポート等、社会人が学べる教育環境整備に努めている。 今後も社会人在校生のニーズの把握に努め、そのサポートの方策について検討・検証し出来るものから実施する。

6：教育環境

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 施設設備・教材教具・図書は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2.0	2.2	<p>学生数に対する教室・実習室等は教育上の必要性に十分対応している。やや評価が低いのは、図書室の蔵書に対する評価と思われる。蔵書に関しては日々進歩する医療についてより新たな情報を学ぶ為にも、最新の専門書の購入を進めて行く。電子化の時流に合わせ電子書籍の整備も図る予定である。また年度末には国内医学論文情報のネット検索サービスを受けられる環境を整えた。教具を含めた設備・備品面においても、経年劣化等が見込まれることから、計画的な更新・補充を行い充実させて行く。</p>
(2) 学外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか	2.4	2.6	<p>実習指導者会議などを通し、臨地実習施設との連携の上、教育体制の充実を図っている。しかし、実習施設が多岐・多数にわたるため情報共有・連携の均一性に一部差が見受けられる。今後はこの差をできる限り少なくする努力を継続的に行う必要がある。</p>
(3) 防災に対する体制は整備されているか	2.6	2.7	<p>施設設備は十分に整備しており、定期的に消防設備点検（年2回）、消防訓練（年1回）を行っている。また、災害時学生・教職員の安否確認を確実に迅速に行える安否情報システムを導入した。防災用品の備蓄については、今年度予算化したものについて整備を図る予定である。</p>

7：学生募集

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 高等学校に対する情報提供が行われているか	2.3	2.4	学園広報室が広報活動の一環として各高等学校を訪問するなかで行っている。また、学校ホームページにて情報の提供を適宜行っている。公開されている情報の内容は、今年度認定された文科省による職業実践専門課程認定に必要な情報内容となっている。学生の出身高等学校には、在校生及び新卒生についての状況報告を学園広報室が行っているが、十分とは言えない現状から、学校自体の高等学校訪問の在り様を検討し高等学校が求める情報の提供に努める必要がある。特に高等学校の大学志向の状況から専門学校の良い点の広報は極めて重要と考えている。
(2) 学生募集活動は、適性に行われているか	2.6	2.7	文部科学省・入学者選抜実施要項に基づき、学生募集活動は適正に行われている。
(3) 学生募集活動において、国家資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	2.9	2.8	学校案内等において記載し、最新の情報については、ホームページ上で公表している。これら以外にも高等学校訪問、入試説明会、オープンキャンパス、個別相談会等で伝えている。
(4) 多様な選抜方法と学生の状況について検討しているか	2.8	2.7	北海道の地域医療に貢献できる看護師の育成を特色としており、選抜方法に地域指定推薦制度を設け、また、社会人のニーズにも対応できる様、社会人入学を設けている。さらに、一般入学については、前期日程、後期日程と時期をずらした選抜方法を設けている。今後は、指定校推薦制度の内容や各試験の試験科目の見直し、さらに高等学校推薦制度の導入等を検討したい。
(5) 学納金等は、妥当なものとなっているか	2.5	2.6	学納金については学生募集要項に明記されており、学校運営経費や臨地実習経費等を鑑みて、適切な金額設定としている。

8：財務

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	1.9	2.4	近年、学園姉妹校の入学者の減少等により、財政基盤はやや不安定になっていたが、一昨年からの経営体制の刷新や入学者の増加により、財政基盤の安定化が図られている。今後も学園全体での入学者の確保と、支出の見直しを行い、より一層の財務基盤の安定化を図る必要がある。
(2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.0	2.5	予算、収支計画は、理事会、評議員会で審議され、作成されている。年度ごとの予算の執行内容は妥当である。
(3) 財務について会計監査が適正に行われているか	2.1	2.6	会計監査は、監査法人のもと、公正、適切に実施されている。
(4) 財務情報公開の体制整備はできているか	1.9	2.6	学園の財務情報公開体制は整備され、財務情報は公開されている。 学校単体については、現状公開されていないが、教職員に対しては学校の収支状況を説明している。

9：法令等の遵守

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	2.8	2.8	専修学校設置基準、看護師学校養成所指定規則、看護師養成所指導ガイドライン等の法令、基準に基づき適正な運営がなされている。
(2) 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	2.6	2.8	学園として個人情報の取扱いに関する規程を整備し、その保護の対策が取られている。また、学生には情報倫理に関する規程を整備し学生便覧に記載している。この他臨地実習要綱書においても個人情報の保護に関し明文化しその保護の徹底を図っている。
(3) 自己点検・評価の実施と問題点の改善を行い、公表しているか	2.5	2.6	自己点検・評価を実施し、それを基に学校関係者評価委員会を開催し、それぞれ学校自己点検評価結果および学校関係者評価委員会報告書として学校ホームページ上に公表している。自己点検と合わせ外部の委員の意見を採り入れ問題点等を把握し、改善に向けて取組んでいる。一部改善が十分と言えない部分があるが継続的に改善に取り組む事としている。

10：社会貢献・地域貢献

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	1.9	1.9	<p>外部からの要望により、学校施設や教材の貸し出しを行った実績はあるが、積極的には活動していない。今年度においては実績は無い。</p> <p>教員への講師派遣等の依頼については、できる限り要望に添うことにしている。</p> <p>この項目における社会や地域への貢献については、昨年度の外部委員の意見からも、有効な活用策が見出せない状況から積極的に行う必要はないと考えている。</p>
(2) 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	1.9	1.8	<p>ボランティア情報については、掲示し案内しているが、学生の自主性に委ねている。カリキュラム上時間的な余裕がなく行うのは困難な状況であり、奨励、支援に至っていない。今後は学校行事としてのボランティア活動を企画し、学生が参加しやすい環境作りについて検討する必要がある。</p>
(3) 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2.0	1.8	<p>前記（1）同様に積極的には行っていない。今後、中学生によるキャリア教育プログラム（上級学校訪問）等の受入れなど、学校として何ができるのか検討する必要がある。</p>